

スモン調査研究協議会研究報告書

No.7

昭和 46 年度保健社会学部会研究報告

—スモンに関する保健社会学的研究—

昭和 47 年 3 月

スモン調査研究協議会

スモンに関する保健社会学的研究

— 第2年度報告 —

目 次

第I部 岡山県井原地区スモンとその社会的側面

……………飯島伸子，須田和子，片平冽彦，高木邦明…………… 1

第II部 岡山県井原地区における事例調査

……………佐久間充，山田いく，矢野正子，園田恭一…………… 73

巻末年表 スモン問題年表(続)

……………飯島伸子，須田和子，片平冽彦，高木邦明…………… 113

は し が き

保健社会学部会の昭和46年度の作業は、前年度の研究を一層深めるという方向で調査研究を実施することとした。

すなわち、調査地区については、前年度に実施したうち岡山県井原地区を、①典型的なスモン多発地区である、②感染説の根拠とされる地区の一つである、④スモンにかかわる社会・経済的な問題が顕著である、等の理由から選定した。

また、主な調査項目としては、Ⅰ．患者ならびにその家族の生活実態および意識、Ⅱ．患者の運動と組織、Ⅲ．社会の疾病観・健康観、Ⅳ．スモン患者のリハビリテーション、Ⅴ．スモン多発地区の社会的要因分析、Ⅵ．スモンに対する行政の対応、を取りあげることとした（ただし、調査の進行に伴ない、項目がある程度しぼられたり、重点が多少変更されたりした）。

調査の方法については、主として①ケースレポートを一層完全なものとするため患者ならびに家族に対する面接を繰返し実施する。②井原市当局・井原市民病院・各種地域団体・井原市医師会・岡山県衛生部・岡山大学医学部等の関係者に面接してききとりを行なうと同時に必要資料を収集する。③その他たとえば、新聞記事など関係資料を可能な限り収集する。等を行なった上で、えられたデータ・資料をできる限り総合的に分析することとした。

調査は、46年7月を中心にそれ以降ひきつづき行なわれたが、市当局から調査を断われたという事情もあって、必要な資料が得られない面もあった。

なお、本報告書には、飯島伸子・須田和子・片平例彦・高木邦明の4名の共同執筆による「岡山県井原地区スモンとその社会的側面」を第一部とし、佐久間充・山田いく・矢野正子・園田恭一の、それぞれの個別報告を第二部として収載した。

また巻末には、昨年度の報告書に引き続き、主として昭和46年4月以降の時期を取り扱った「スモン問題年表」(続)を収録した。

昭和47年3月

スモン調査研究協議会保健社会学部会

宮 坂 忠 夫